

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201454		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里 たんぼ		
所在地	長崎県佐世保市長畑町450-1		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成25年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、その人が自分らしく、普通に生活出来るように支援している。職員自身も環境の一部である事を常に念頭においている。又、人生の大先輩であるという敬いの心を持って接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近くに山や川がある自然豊かな環境に位置している。同一法人が経営する介護施設が複数隣接し、行事や災害訓練等は各施設と合同で実施している。職員は、理念である「いつまでも自分らしく有り続ける人生を送る」という理念を基に、利用者が穏やかに心地よく毎日を過ごせるよう支援している。管理者や職員間のチームワークは良く、日々の清掃は担当を決めることなく、互いがそれぞれの行動を把握し自主的に行っている。丁寧な対応やアセスメントを行い、介護記録は簡潔にわかりやすく記入されている。食事は職員が毎食キッチンで調理しており、食材を刻む音や匂いなど利用者は五感で感じる事が出来る。夜間に利用者を看取った際は、担当者からの連絡で職員が自主的に集まり最期を見送るなど、利用者や家族の気持ちに寄り添いながら支援を行っている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた目標を掲げており、玄関や休憩室にも掲示し、日々、確認しながらしえんしている。	職員は「いつまでも自分らしく有り続ける人生を送る」という理念を理解し、利用者には人生の先輩として尊敬の念を持って接している。利用者の意見や気持ちを尊重し、無理強いをせず利用者から「ありがとう」の言葉が出るような支援を目指し日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に保育園との交流をもったり、玄関先で近隣の方と接したり、運営推進会議を通して地域とのつながりが深まっている。	町内清掃時に職員が参加したり、年に数回保育園児の訪問や中学校の職場体験などの受入れを行い、積極的に外部との交流の場を設けている。玄関先や散歩時に近隣者と会った際は、挨拶や言葉を交し、近隣から畑の収穫物が届くなど地域住民との繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体で、地域の清掃前の空き缶拾いに取り組んだり、運営推進会議を活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて近況報告をし、助言や意見を頂き、サービスの向上につながっている。避難訓練への参加もあっている。	会議は年6回利用者の家族を含めた規程のメンバーで開催し、近況報告や町内会長、地域包括センター等との情報交換を行っている。避難訓練時に毛布を使った搬送を行う際、利用者での実技が困難な為、近隣住民に参加して貰って実施するなど、意見等をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事を尋ねたり、推進会議の包括センターの職員と情報交換や助言を頂いている。	年数回担当者の訪問を受けたり、運営推進会議や消防訓練時に声をかけ参加を得ている。日頃から介護保険の更新時等に不明な点を尋ねたり、確認が必要な時は随時連絡を取り合うほか、市主催の研修は案内をもとに職員が受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を実施し、周知に努めている。拘束ゼロに向けたケアを行い、研修に行った者を中心に拘束委員会を立ちあげている。	職員採用時に身体拘束や言葉による拘束の説明を行い、言葉使い等で気付いたことがあればその都度注意し合っている。法人内で拘束委員会を設置したほか、定期的に他のユニットと合同で勉強会を開催している。外部研修に参加した場合は、研修内容を報告し情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の勉強会に参加して、スタッフの理解を深め、防止に努めている。		

グループホームみのりの里たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当しない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、思いを知る為に傾聴し、十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望や意向をお尋ねし、悩みや相談をお聞きし、話しやすい状況をつくるようにしている。遠方の方には、電話で伺っている。	利用開始時や面会時など、利用者や家族から意見や要望を聞く際は話しやすい雰囲気作りを心掛け、各人の希望に沿った支援に努めている。遠方の家族には毎月電話で近況報告を行うほか、年4回事務所の行事や情報等を記載した「たんぽぽだより」を作成し、家族に郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時に意見交換を行い、必要な時には、時間を設けて話し合っている。又、話しやすい雰囲気となるよう心がけている。	申し送りやミーティング時、昼休み以外にも、管理者や職員間で意見交換を行い、意思の疎通を図っている。年1回責任者との面談があり、資格取得や異動の希望など職員の意見・要望を聞き、運営に反映している。今年度は職員の要望で衣類乾燥機を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議や、各ユニットの管理者が行う評価を活用し、やりがいをもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自身のスキルアップの為に、積極的に参加するよう声掛けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会の定例会に出席したり、協議会主催の勉強会に参加して、交流の機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族からの情報に耳を傾け、アセスメントをしっかりと取り、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しをする機会を設けたり、面会時には必ず、要望等をお尋ねし、その要望にもこたえられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族との話し合いの中で、その時の状態に合わせた対応が、速やかに出来る体勢づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者である皆様を、人生の大先輩である事を念頭におき、尊敬と敬愛をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて密に連絡をとり、近況を伝え、要望をお尋ねし、良い関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の存在が、本人の精神的ケアに必要不可欠な為、会いに来やすい雰囲気作りを心がけている。	家族や友人の訪問に加え、利用者の馴染みの美容院に事業所内での散髪を依頼し、他の利用者にも声を掛けて交流の場を増やすよう配慮している。食材の購入は生協や地元の商店から行い、発注や配達などの来初時に利用者との会話も生まれている。遠方には電話をかけるなど関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの人間性を大事にしながら、利用者同士が共に支え合って生活していく事が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	つながりを大切にし、何かの時にはお声掛け下さいとお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話を大切にし、思いをとらえ、ご家族とも話す機会を設けて、本人本位となるよう考えている。	フェイスシートには利用者や家族から聴取した生活歴や嗜好、性格等の情報を詳細に記録している。また、日々の会話や行動から気付いた点は随時職員が追記や修正を行い、常に新しい情報を共有している。発語が困難な利用者には声かけや表情から思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他事業所からの情報を受けたり、本人や家族から話を聞く機会を設けるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状況を観察しながら、職員間で情報交換し、その方に合った生活が送れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意見を聞きながら、スタッフの情報交換や医師との連携の下、本人の望む暮らしになるように作成している。	介護計画作成前に利用者や家族から意見、要望を聞くと共に管理者やケアマネージャーが現況を説明している。モニタリングは3ヶ月毎に行い、計画作成時は職員の意見や記録等を基に主治医や管理者、担当者を交え、食事の形態や看取りに関する対応も含め検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やバイタル表等の記載や申し送りノートを活用し、スタッフ間で情報を共有し、計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により外出、ドライブ、外食、散歩、買い物などに出掛けている。		

グループホームみのりの里たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力を得て、有事に備えて避難訓練等を実施していて、近所の方の参加もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である梶田医院を主治医とし、受診や定期健診を受け、連携に努めている。急変急病時には直ぐに往診を受ける事が出来る。又、ご家族によっては、他医療機関での受診をうけている。	契約時に母体医療機関を説明し、同意を得て変更している。24時間の医療連携の体制を構築しており、緊急時にも対応できるため本人・家族の安心に繋がっている。耳鼻科・眼科は職員や家族が同行しており、受診結果は互いに共有している。職員間は業務日誌や介護日誌に記録し共有する仕組みがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換を行い、連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関への入院が殆どであり、面会に努め、病院関係者との情報交換を行い、早期退院にむけ相談し、連携をとるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より本人・ご家族の意向をお尋ねし、十分に期待に添えるように話し合いを行っている。又、状態の変化に応じ、確認と説明を行い、医師・スタッフ間での情報の共有し、チームケアを行っている。	看取りを行っている。指針を説明し同意を得ている。月曜の往診日には主治医と家族が話す場を設けている。重度化してきた段階で都度、家族に意向を確認している。スタッフは悔いのない介護に努め、看取りの場に職員全員が揃うよう連絡を取り合って最期を見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが、普通救命講習Ⅰを受講して備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを基に、消防・地域の方と合同で防災訓練を実施し、有事の際の協力をお願いしている。	年2回以上の訓練を実施している。夜間想定や消防署立ち合いでの消火・通報・避難訓練を行っている。訓練に参加できなかった職員に対して申し送りや朝礼、月1回のミーティングで様子を報告し共有している。訓練には運営推進会議のメンバーの参加があり、自然災害のマニュアルを整備しており、備蓄品も揃えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方を大切に、年長者として敬い、その方の人生を知り、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや行動に注意を払いながら支援を行っている。	利用者がトイレを使用している時はドアを閉め、使用後のオムツは新聞紙に必ず包むよう努めている。管理者は利用者の呼称は「さん付け」するよう指導しており、職員間でも注意している。ただし、個人ファイルをガラス戸の中に保管しているため個人名が見える。また、写真掲載の同意もこれからである。	個人ファイルの保管場所、ファイル名の検討などプライバシー保護に関する工夫が望まれる。また、写真掲載への同意書の作成も期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、傾聴する事を大事にし、ゆとりを持って接する事で、何でも言ってもらえる環境作りをする事で、思いを伝えやすく、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が、思いを伝えやすい環境をつくり、無理強いせず、その人のペースで出来る事・したい事の希望に沿った支援になるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出などの機会には、いつもと違う物を選んで着たりして、おしゃれを楽しんでいる。又、散髪は、近所の顔なじみの美容室から来てもらい、コミュニケーションがとれて、楽しい時間となっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの残存機能を活かした手伝いを、能力に応じてして頂いている。献立作りも嗜好を聞きながら取り入れている。	献立は利用者と一緒に考えており、一週間に一度作成している。旬の食材を使い、季節にあった料理になるよう工夫している。嗜好に合わせた代替食やキザミやミキサーなど利用者に合わせて提供している。ドライブ時の外食やクリスマスケーキなどもある。食事前には嚥下体操を行い、楽しく食事が取れるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた食事形態で提供し、その都度、嚥下力に合わせた食事形態の見直しを行いながら、摂取量や水分量が確認でき、記録する事でも把握出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせ、口腔ケアを行ったり、準備をしたり、声かけや支援をして、清潔保持に努めている。		

グループホームみのりの里たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々のパターンを把握して、トイレ誘導にて排泄が出来るようになった方もいらっしゃる。	便意の表現があったら、オムツ使用の利用者であってもトイレでの座位排泄を支援している。排泄チェック表でパターンを把握し、自室のトイレでの排泄に繋げている。パターン把握によるトイレ誘導の結果、オムツからリハビリパンツに軽減した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動を欠かさず、1日の水分量の把握と、一人ひとりの好みに合わせた飲み物も提供している。又、和食中心の食事内容になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決まった曜日以外でも一人ひとりの状態や希望に合わせて行うようにしている。楽しみの1つと捉え、コミュニケーションの場と考えている。	週2回を基本としており、夏場は週3回の入浴を支援している。自立している利用者も転倒しないよう職員が見守りなど行い配慮している。足浴も行っている。ただし、季節を感じる入浴についての取組みはこれからである。	利用者が入浴を楽しむひとつとして、春や冬など季節を感じる工夫が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡を取り入れている。又、その方の習慣や体調に合わせて、休憩出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を活用している。かかりつけの薬局との連携もとれており、相談もしやすくなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存機能を把握し、出来る事や出来そうな事をレクリエーションで取り入れ、笑顔で生活でき、役割を持って生活出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調をみて、戸外へ出掛ける支援を心掛けています。又、ご家族の希望に合わせて協力を得ながら自宅や外食をする支援をしている。	近くにあるコンビニエンスストアまで車で出掛けている。週に2回、八百屋が玄関先まで来る時には利用者も一緒に出て、野菜を選んだりしている。利用者2人ずつ希望の飲食店で食事する食事会では、職員と出掛けており、時には家族も一緒に食事している。天気の良い日は建物の外で外気浴をし、お茶などを楽めるよう支援している。	

グループホームみのりの里たんぽぽ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物を相談しながら購入したり、施設のものと一緒に選んでもらって買うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人の協力をあおぎ、電話をかけたり、かけてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物(作品)等を飾りながら、過ごしやすい空間になるよう、その方やその場に合わせた工夫するようにしている。	居間や食堂などは毎日職員が掃除機やモップで清掃し、手すりは週1回消毒液で除菌する等衛生面に配慮している。日当たりの良い居間にはソファや大型テレビが置かれ、多数の利用者は日中居間で穏やかに過ごしている。空調の温度調整は職員が行い、冬場は加湿器を設置するなど快適な環境となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の安心して過ごせる居場所を見つけ、落ち着ける空間になるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や愛着のある物を、相談して持ってきてもらい、居室が居心地の良い空間となるように配慮している。	居室には使い慣れたテーブルやタンスのほか、火災防止用の電気式線香・ろうそくを使用した仏壇も持ち込まれている。室内のトイレは毎日職員が掃除し、排泄物処理時は窓を開けたり換気扇をまわして臭いが籠らないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせて、安全で安心した生活が送れるように支援している。		